

## 嬭恋村のキャベツ畑に入る哺乳類―センサーカメラ調査から―

麻布大学 野生動物学研究室

片山 阿佐美・南 正人

キーワード：ニホンカモシカ、センサーカメラ、農業被害

### 1) 背景・目的

群馬県の嬭恋村はキャベツの一大産地として有名である。しかし、近年野生動物による農作物被害が深刻な問題となっている。これらの被害は主に国の特別天然記念物に指定されるニホンカモシカ (*Capricornis crispus* 以下、カモシカと表記) によるものと言われている。

嬭恋村では平成 19 年度から個体数調整が行われている。カモシカによるキャベツの食害被害の目撃は多く、被害を出していることは確かであるが、カモシカが主な加害動物であるかは不明である。カモシカが主な加害動物であるか、またどういった要因で被害が起こっているのか十分な調査を行わずに個体数調整を行っても、被害の軽減をはかるのは難しい。またカモシカは遺伝的多様性が低いため、むやみな個体数調整を避けるべきであるともいわれている (出口 2000)。

2012 年と 2013 年に嬭恋村でセンサーカメラを用いた調査 (原 2013) が行われた。カモシカがキャベツの収穫を終えた畑で放棄された作物を食べている姿が撮影され、カモシカが放棄作物に誘引されていると考えられた。カモシカの他にもニホンジカ (*Cervus nippon* 以下、シカと表記) やイノシシ (*Sus scrofa*) も撮影された。しかしながら、原 (2013) は日中の畑での撮影が十分でなかったため加害動物を十分には特定できなかった。

そこで、本研究ではキャベツの耕作前から収穫後まで、昼夜連続でセンサーカメラを稼働させて、加害動物種の特定と出没時間帯を調べることにした。

### 2) 方法

2013 年 5 月 25 日から 9 月 28 日まで、嬭恋村の 3 か所 (北山地区、愛妻の丘北、姥ヶ原東) のキャベツ畑の端と隣接する林内 2 か所に赤外線センサーカメラ (Moultrie M-80XT) を設置して撮影した。

### 3) 結果・考察

すべての畑での合計撮影回数はカモシカが 3 回、シカが 263 回、イノシシが 144 回であった。林はカモシカが 3 回、シカが 26 回、イノシシが 0 回であった。2 か所の畑でシカとイノシシがキャベツを食べている姿が撮影されたが、カモシカは撮影されなかった。3 種とも畑で主に撮影された時間は 18:00~05:59 で、シカとイノシシについては 06:00~11:59 までに撮影されたものもいた。一方 1 か所の林では 06:00~11:59 にカモシカが、12:00~17:59 にシカが撮影された。

今回センサーカメラを設置した畑では、カモシカは隣接する林を利用しているが畑にはあまり出ていなかった。またキャベツを食べているところも撮影できなかったため、

3か所の畑でカモシカが被害を出していたかは不明である。しかし2か所の畑ではシカとイノシシが被害を出していることは確かである。シカが林内では昼間も撮影されたのに対し、畑ではほとんど撮影されなかったことから、昼間は作業の為に人が畑にいるため、シカが畑を使用しないと考えられる。また今回撮影を行った畑では、電気柵ではなく、紐やテープを用いた柵が設置されていたが、あまり効果はなかったと思われる。やはり電気柵など、より効果的な手段を用いた対策が必要だろう。

本発表ではセンサーカメラによる撮影結果を示したが、例数が少ないので、キャベツ被害の甚大な畑等さまざまな畑で調査する必要がある。さらに、カモシカの土地利用や食物供給量、食物となる植物の栄養などを調べ、畑に加害する理由を調べる必要がある。

本研究では、孀恋村役場や孀恋村の農業者の方、NPO 法人生物多様性研究所の御協力をいただきました。また、本研究は、京都大学野生動物センターの共同利用・共同研究のファンドの支援をいただきました。感謝致します。

出口善隆. 2000. 耕作地を利用するニホンカモシカの摂食行動. 東北大学大学院農学研究科環境修復生物学専攻博士論文. pp. 136.

原 渚. 2013. 孀恋村におけるキャベツ畑のカモシカによる農業被害. 麻布大学獣医学部卒業論文. 61pp.